

Affiliated with the International Asso
THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO HACHIOUJI
Chartered October 30, 1994



〒191-0032
東京都日野市三沢 884-1-302
中塚 辰生 TEL : 042-592-7965
携帯 : 090-8461-1739
e-Mail : t.nakatsuka@softbank.ne.jp

2017 年 4 月

第262号

The Service Club of The YMCA

東京八王子 ワイズメンズクラブ

会 長 中塚 辰生
副会長 小口 多津子 多河 敏子
書 記 久保田 貞視 小口 多津子
会 計 長谷川 あや子
ネット会長 並木 雍子
担当主事 中里 敦
ブリテン 山本 英次・茂木 稔
大久保 清 多河 敏子
直前会長 長谷川 あや子

国際会長主題 Joan Wilson(カナダ) 「私たちの未来は、今日より始まる」
スローガン: 「手を取り合えば、もっと多くのことができる」
アジア地域会長主題 Tung Ming Hsiao (台湾) 「ワイズ運動を尊重しよう」
スローガン: 「よりよい世界のために、ワイズメン・ファミリーの絆を強めよう」
東日本区理事主題 利根川 恵子 (川越) 「明日に向かって、今日動こう」
スローガン: 「手を取り合って、今、行動を！」
あずさ部部長主題 浅羽 俊一郎 「あずさ部は賜物の宝庫。もっと活かそうぜ！」
クラブ会長主題 中塚 辰生 「クラブ活性化に全員が一歩前進」

2017年4月 第一例会

(担当B班) 辻、茂木、並木、望月、久保田、佐藤
日時: 2017年4月8日(土) 18:00~20:00
場所: 八王子市北野事務所 2階大会議室

受付: 望月、辻

司会: 茂木

開会点鐘

ワイズソング

ワイズの信条

ゲスト・ビジター紹介

聖書朗読・感謝の祈り

会食

卓話「ドクター肥沼の生涯」

Dr. 肥沼の偉業を後世に伝える会 会長 塚本回子 様
スマイル 望月

報告・連絡事項

YMCA 報告

スマイル報告

Happy Birthday

閉会点鐘

会 長

一 同

一 同

会 長

並 木

一 同

会長・委員長

担当主事

望 月

会 長

会 長

巻頭言

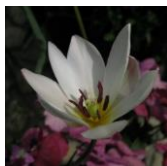
(ご寄稿文)

ステージと聴衆が一体となって盛り上がり感動的

中央大学YMCA白羊会 塩野秀男様

1、青春時代がよみがえり名曲の数々に酔いしれて・・・
チャリティコンサートの案内プログラムを見て今回はどのような趣向となるのか楽しみにしておりました。
期待に違わず5人の演奏家も巧みで、それぞれの楽器の特性を発揮して聴衆を存分に楽しませてくれたものと思います。往年の懐かしい名曲の数々が紹介されうっとり聞きほれた観衆の雰囲気から大変な盛り上がりも感じられました。私も久しぶりに聞く名曲から流れる心地よいムードに浸りつつ酔いしれることができました。入場者も私を含め

先月の例会ポイント (3月)		BF ポイント	
在籍	17名	切手 (国内・海外)	175g
メン	15名	累計	175g
メイキャップ	0名	現金	0円
出席率	88%	累計	0円
メネット	7名	スマイル	6,101円
ゲスト	9名	累計	77,616円
ビジター	12名		
ひつじぐも	7名	オークション	0円
		累計	0円



かなりの年代の人が多く、それぞれ青春時代が蘇ってきたことも確かです。

今回のコンサートへの感謝を込めて小生の感想コメントを次にまとめてみます。

- (1) 5人の楽器がそれぞれ巧みて個性を引き出しており紹介されるように演奏されて存分に鑑賞できました
- (2) ポピュラーな曲にも簡単なコメントが付いて懐かしさと共に聞き馴れた当時の時代が思い出されました
- (3) 聴衆の世代にマッチした選曲に演奏される方の工夫があって雰囲気盛り上がり聞く方も十分満足感が
- (4) ステージも対等の位置で押しつけがましさが無く聴衆とも一体となり楽しめたことで共感が得られて
- (5) 騒がしいライブ風でもなく身構えたバンド演奏でもなくサロンのなモードでノスタルジックに楽しめて

2、チャリティの主旨に相応しい企画に敬意

学生時代は新しいジャンルとして憧れの的だった曲が今では懐かしく響いて郷愁を覚えました。往時を呼び起こしてコンサートでの演奏曲の中で印象に残った楽器と場面につき次に手短かにコメントしてみます。

- a、ムード漂い染み渡るような音色が素敵なスターダスト
 - b、誰でも口ずさめるような軽快なメロディの鈴懸の径
 - c、洋画ベニーグッドマンに登場したメモリーズオブユー
 - d、「ピクニック」に登場の女優キムノバクプールのシーン
 - e、ドラムスの張り切りが喝采を浴びてエキサイティング
 - f、ベースがソロ調で歌うようにダイナを奏でて珍しく
 - g、リードのクラリネットが支えて進行を和やかに
 - h、ピアノは全体をうまくこなして調和させる技巧派
 - i、聴衆との一体感が皆で歌えそうな雰囲気まで高めて
- 今回のコンサートの企画が従来の枠を超えて新しい方向を目指したとのことでは見事に成功に導かれたと思います。実行委員長の茂木さんほか携わられた皆さんに敬意を表する次第です。



チャリティーコンサートを終えて

チャリティーコンサート実行委員長 茂木 稔

クラブの年間最大の行事である、3月11日のチャリティーコンサートを終えて、それを聴きに来てくれた近隣の方々に反応を聞いたところ、皆さんが大変良かったとの評価に、実行委員長を務めた甲斐があったと充実感の気持ちが広がりました。

今回はジャズにしようとして私が提案しましたが、その出演者の目星も全く無く、演奏が出来るグループすら私は知りませんでした。そこで、音楽分野に強い友人に相談したところ、ジャズを演奏するグループは今では少ないとの答えが返ってきました。

昨年7月になり、銀座で演奏するグループの幾つかを聴きに行く誘いあり、私と小口さんと夜の銀座へ友人と共に出掛けました。ステージでの演奏後、彼は遅くまで残り、その演奏者と相談してくれて可能性を聞いてくれ、相談の機会を作ってくれたのです。

我々、中高年の人たちは1960年(昭和35年)～1960年(昭和45年)の日本のジャズの最盛期に高校や大学生であり、若い頃にジャズの洗礼を受けている人達なのです。これらの背景が有ったので、今回の音楽会が楽しかったと皆さんがその頃の自分を思い



出してくれたのでしょうか。しかし、今回の準備には大変苦労しました。今迄は八王子近隣の音楽家や演奏者を中心にしておりましたので、連絡もとり易かったのですが、今回のメンバーは千葉や横浜等、皆八王子よりも都心部中心の人達です。そこで生じた問題はドラムス、ビブラフォン、ベースという大型の楽器の搬送のことです。これら搬送費という問題に気づかず話を進めてしまい、大いに心配しました。幸なことにこれらドラムは千葉から、ビブラフォンは横浜からは演奏者の皆さんが自分の車を使い運んでくれたので、楽器運搬業者の大きな支出無しに出来、また、あの大きなベースは演奏者自身が電車で持って来てくれたのです。これには大感謝です。

もう一つの問題は演奏曲の決定がなかなか決まらず、3月1日に最初の案が来てから、3月5日の最終決定まで迄、3度も大幅な変更があり、プログラムの印刷も私の担当のため、気が急きました。

コンサートの当日は天候も恵まれ、暖かな日和で、会場も丁度良い入りでお客様も楽しめたと思います。特筆すべきは会場内の募金が66,000円と今までの最高額となったことです。内海さんお話や上田さんの東北地震の挿話、それにも増して音楽会に満足してくれた方々が、それに応えてくれたものと思っています。

プログラムの表紙に使用した雪割草が、丁度、我が家の庭で80鉢が満開で咲いていました。

コンサートを飾った人たち



中塚会長：あいさつ



司会：佐藤さん



初めてのチャリティーコンサート

中大ひつじぐも 真山 真歩

私は今回初めてチャリティーコンサートに参加しました。想像していたよりも多くのお客様がお越しくださり、とても楽しく充実した時間でした。中央大学生は会場の準備と受付、終了後のアンケートの回収と会場片付けを担当しました。私は中学校と高校時代に吹奏楽部に所属しており、自分たちのコンサートの運営他スタッフをしたこともあったため、その頃を思い出して少し懐かしいような気持ちでお手伝いさせていたただいていました。開場前のリハーサルも少し見学させていただき、演奏者の皆さんが楽しそうに準備されている様子もみることができました。

例年は歌手によるコンサートを行っていたようですが、今年にはクラリネット・ドラム・ピアノ・コントラバス・ヴィブラフォンによるジャズコンサートでした。

高校時代吹奏楽をやっていたときは少しジャズに触れることもありましたが、大学に入学してからは日常生活の中でジャズをゆっくり聞く機会があまりないのでとても新鮮で、改めてジャズの魅力を発見することができました。

お客様も帰り際に「とても素敵だった」「楽しかった」と声をかけてくださいました。運営している皆さん、演奏者の方、お客様全員が楽しむことができた、とても素敵なコンサートになったと思います。

また、今回はただのコンサートではなくチャリティーを目的として開催されたコンサートで、その場にいる人だけではなく東北で被災された方や地雷で辛い経験をされた方に思いを馳せる機会にもなりました。特に震災からちょうど6年目の3月11日に開催されたため、ご来場頂いたお客様にとっても震災のことを思い返す良いきっかけにもなったと思います。東日本大震災から長い年月が経っていますが決して私たちの記憶から薄れてはいけなと思うので毎年このような機会があることがとても大切だと感じました。

最後に、このような素敵な経験をさせてくださったワイズメンズクラブの皆さんに心から感謝申し上げます。

(聖句)

世界中は同じ言葉を使って、同じように話していた。東の方から移動してきた人々は、シニアルの地に平野を見つけ、そこに住み着いた。彼らは、「れんがを作り、それをよく焼こう」と話し合った。石の代わりにれんがを、しっくい代わりにアスファルトを用いた。彼らは、「さあ、天まで届く塔のある町を建て、有名になろう。そして、全地に散らされることのないようにしよう」と言った。主は降って来て、人の子らが建てた、塔のあるこの町を見て、言われた。「彼らは一つの民で、皆一つの言葉を話しているから、このようなことをし始めたのだ。これでは、彼らが何を企てても、妨げることはできない。我々は降って行って、直ちに彼らの言葉を混乱させ、互いの言葉が聞き分けられぬようにしてしまおう。」主は彼らをそこから全地に散らされたので、彼らはこの町の建設をやめた。こういうわけで、この町の名はバベルと呼ばれた。主がそこで全地の言葉を混乱(ババル)させ、また、主がそこから彼らを全地に散らされたからである。

(創世記 11 章 1 節～9 節)

街頭募金に参加しました

中大2年 坂本 菜美

あの震災から早くもまる6年が経ちました。当時中学2年生だった私は4月から大学2年生になります。6年前の事、皆さまは覚えていらっしゃるでしょうか？

当時、私は日本国内にいなかったので、皆さまが経験した“あの震災”をよく知りません。テレビで報道されている日本の津波の様子を客観的に見る事しかできませんでした。自分の母国である日本が大変な目にあっている。

自分に何かできることはないのか。幸運なことに同じく海外に住んでいる日本人と繋がりがあったので、その方々とチャリティーイベントを開きました。



1日だけの開催だったのですが、たくさんの方が来てくれて、多くの寄付金を集めることができました。母や妹と集まったお金を数えて、赤十字に持って行ったのを覚えています。学校でもクラスメイトが日本に募金をしたことを報告してくれて、嬉しく思ったのも心に残っています。帰国してからも、“あの震災”を経験していないという疎外感のようなものが消えることはありませんでした。大学に入ってひつじぐもに会い、他大学の学生と熊本被災地支援募金活動に携わることができました。今回もこのように支援活動に携わる機会を得ることが出来、感謝しております。引き続きこの活動は継続していただきたいと思います。ただ歩いて通り過ぎた方々も、私たちの活動によって、3・11を思い出されたのではないのでしょうか。忘れないという事が一番重要ではないのでしょうか。今回の街頭募金に協力していただいた過半数が若い世代の人だったように感じます。残念ながら私たちは地震が起こることを止めることは出来ません。しかし、6年前の大震災を忘れることなく、募金に協力して下さる子どもたちが多くいることを知り、これから先、再び大震災が起きたとしても、お互い助け合って生きていくことが出来る日本になっている事を期待しております。その子どもたちをサポートできる大人でありたいです。

二大 YMCA 総主事就退任式に出席して

久保田貞視

○東京 YMCA 総主事就退任式

2017年3月19日(日)午後2時半より、リーガロイヤルホテル東京で廣田光司総主事から菅谷淳新総主事への東京YMCAの交替式が盛大に開催されました。出席者は東京YMCA役員・委員・職員・法人・諸団体・ワイズメンズクラブのほかソウル・台北・バンガラデッシュ YMCA など海外YMCAの総主事に全国YMCA・主事OBを含め総数150人余りの参加者でした。廣田総主事は過去8年に亘り、神田撤退以降続いていた東京YMCAの赤字体質を改善し、これから本

部機構を移し新生YMCAをスタートさせる基盤づくりをして、菅谷新総主事に引き継ぐことになりました。説教は「明日にかけの橋」として、古賀牧師の創世記9章の「虹」から弓—架け橋—YMCAブランドコンセプトを説明し、引継ぎの重要性を説かれました。また、廣田総主事の過去8年の回顧と菅谷新総主事の力強い就任の挨拶、上林牧師の菅谷新総主事のYMCA就職時のエピソードと○△□を使っのユーモアを交えたテスト、海外YMCA総主事の祝辞等続きました。

茶話会は飲食を共に和気あいあいとしたもので再生東京YMCAの門出として相応しい会でした。

当クラブからの出席者は小口さん、並木さん、久保田。

○日本 YMCA 同盟総主事就退任式

3月26日(日)午後3時より在日韓国YMCA

アジア青少年センターで島田茂総主事の退任と神崎清一新総主事の就任式が、多くの関係者の出席のもと盛大に開催されました。出席者は、アジア・パシフィック同盟総主事、中国・韓国・台湾・香港YMCAの総主事、多くの関係団体のゲスト、全国のYMCA総主事、日本YMCA同盟の役員ほぼ全員、ワイメンズクラブ、加盟YMCAなど150名以上の参加者でした。参加者の中では、中大YMCA白羊会の村野会長、DBC大阪セントラルクラブの入江ワイズ(日本YMCA退職者会副会長)にもお会いしました。

総主事就退任式は、日本YMCA基本原則に基づく総主事就任の誓約を司式者である中道基夫牧師(同盟理事・神戸YMCA理事長)と神崎新総主事との間で交わされ、聖書引継ぎが行われるなど厳粛な式でした。

その後のご挨拶の会・茶話会は、日本YMCA同盟正野会長の挨拶に始まり、山田前アジア太平洋YMCA同盟総主事のお祈りと乾杯。続いて、島田総主事の退任挨拶、世界からのメッセージとしてアジア太平洋YMCA同盟総主事のMr. Nam Boo Wonの挨拶、ビデオでの世界YMCA同盟総主事Rev. Johan Vilhelm Eltvikのメッセージと続き、神崎新総主事のYMCA新VISIONを訴えた就任挨拶のあと茶話会となり、アジア・日本の多くのYMCA関係者の貴重な交流の場になりました。

チャリティーコンサートの感想(ご寄稿)

甲府21クラブ 功刀 弘 様

「八王子チャリティーコンサート・・・」

第19回になる地雷魔絶日本キャンペーンとのこの会に初めて参加しました。

内海旬子さんの説明とロビーに展示されている写真を見ながらこの運動に力を入れてきた八王子クラブのお働きに敬服いたします。

久しぶりにジャズコンサートを堪能することができ楽しいひと時でした。大学生時代、50年以上前にダンスパーティーでよく聞いた曲で踊りだしたくなるような雰囲気でした。私の前に座っている方は曲に合わせて体を振っていました。

内海旬子さんのスピーチも説得力がありました。

新婚時代に八王子から信濃町に通勤しているときに京王線をよく利用しましたが、当時と北野駅周囲がすっかり変わっているのに驚きました。

京王八王子駅が地下になっているのも初めてで浦島太郎の気分でした。久しぶりの気分一新の機会が与えられたことを感謝します。2017年3月11日、震災から6周年

3月25日(土)に「希望の凧揚げ」を実施!!

小口多津子

大震災から6年目を迎えた「被災地を決して忘れない、希望の凧揚げ」を目的に、今年も高幡不動駅裏側の浅川の河川敷で、晴天の中で凧揚げをいたしました。

大空に舞う凧にマジックで書かれたいろいろなメッセージ。

これを見た何人もの人が立ち止って「何か書いている」と、土手の上から、また橋の欄干に身を乗り出して眺めてくれている人たちを見て、私たちの心の中は「やったー」と叫んでいました。被災地を忘れないこと出来ることは、メッセージを読んでもらうことなのです。

八王子クラブの立ち上げ人である奈良昭彦さんのアイデアで生まれたこの凧揚げは、全国のあちこちのクラブ、YMCAなどで毎年の行事にもなっています。

春は学生さんは忙しい、かつての小さなお子さん達もだんだんと大きくなって参加が大変、ならば私達メンバーだけでもと続けています。私達に出来ること、それは大震災を忘れないことです。忘れない気持ちを誓って、その長い糸の先、吸い込まれそうな青空の中に目をやると何と新鮮で、ゆったりと自分自身が癒されていくのがわかりました。

参加者は中塚会長、山本さん、久保田さん、中里さん、長谷川さん、多河さん、久保田メネット、小口でした。



今年も「希望の凧揚げ」で笑顔がいっぱいです。



他クラブ訪問

長谷川あや子

○東京武蔵野多摩クラブ

3月の東京武蔵野多摩クラブのブリテンの第一面に例会案内「『発達障がい』ってなんだろう?」、(きしめん) 樋上巧洋さんの写真が載っていました。

これは絶対聞き逃さないと思い、早速出席の申し込みをいたしました。例会日の3月8日は西東京センターのリーダー達による東日本大震災支援のための街頭募金の日でもありました。私は街頭募金に立つことは出来ず、募金にだけ協力しましたが、リーダー、スタッフ、武蔵野多摩クラブのみなさんが寒い中を2時間もボランティアして下さいました。その中には八王子クラブの小口さんもいらっしゃいました。ありがとうございました。募金総額は63,383円だったそうです。

卓話者の樋上さんは2016年5月に東京YMCA 西東京センターに入職。現在、発達障がいやその周辺に課題を持つ子どもたちを対象としたソーシャルスキルトレーニングを行うASCAクラスの講師、放課後デイサービス「さくら国立」の指導員をなさっています。「発達障がい」の歴史と西東京センターが発達障がい児・者を対象に行っている活動について話して下さいました。理想に子どもをあてはめない、ありのままの姿を受け入れること、がんばってもできないことがあるのを理解し、子どもを受け入れることの大切さを学びました。ビジターとして西クラブの神谷メネット、八王子クラブから小口さん、長谷川、そして花輪さんの参加がありました。

○東京世田谷・東京西クラブ合同例会

3月17日は東京世田谷クラブと東京西クラブの合同例会でしたが、私は数年前からこの合同例会を楽しみに出席しています。今は東新部とあずさ部に分かれています、ワイズメンズクラブが東西に分かれる前には同じ南東部だったそうです。そのときの仲間ということで一年に1回合同例会を開催しています。今年は世田谷が担当ということで経堂のすずらん会館での例会でした。卓話は「先進主要国での福祉介護」卓話者はワイズ歴1年の松井直樹さん(世田谷クラブ)でした。認知症のお話も出ましたが、大切なことはお互いに認めあうこと・・・

8日に聞いた「発達障がい」のお話と共通するものを感じた次第です。

世田谷クラブの小原メネットと川嶋さんの手作りの豚汁、それに西クラブの村野さんの胡桃柿餅子等など、美味しくアットホームな雰囲気での例会でした。

高尾山健康登山番外編

久保田貞視

毎月の高尾山健康登山は既に120回を超え、今年から、2カ月に1回は、高尾山とともに、他の山に登ろうと決まり、手始めに八王子城に登ることにしました。

3月6日(月)午前10時、高尾駅北口に10名が集合し、バスで霊園前に行き、徒歩で20分、八王子城跡に着きました。まず、八王子城城主、北条氏照の墓参りからガイドンス施設へ。今回は山本ワイズも参加しました。

北条氏照は後北条氏の三代目氏康の二男で、関東地区を治め、天正15年(1587年)新築の八王子城に滝山城から拠点を移しましたが、天正18年(1590年)6月23日、前田利家、上杉景勝に攻められ、落城しました。これが決め手となって、小田原城は開城、当時、小田原城に籠城中の氏照は兄の氏政と共に自害し、北条氏は滅亡しました。

登山は結構急な山道を登り、頂上の本丸跡(標高460m)まで約50分で登頂。頂上近くには、八王子神社があり、神社には、牛頭天王と眷属神である8人の王子が祀られており、八王子の地名の由来となったとされています。

下山に約30分、ガイドンス施設で昼食。その後、古道、御主殿跡等を散策しました。その間、山本さんはガイドンス施設のボランティアの方に城跡を案内していただいていた。

帰路はバス停まで戻り、バスで高尾駅に。打ち上げは南口の「多摩の里」で飲み始めたところに、病气療養中で休会となっている元メンバーの田中寛さんが現われました。

3年半ぶりです。まだ療養中ですが、顔色は良く、本当に久しぶりにお会いできました。早期回復され、山行も一緒に行ける仲間になれることを祈った再会でした。



「高尾わくわくたより(新任のご挨拶)」

新館長 古市健

この度、4月より高尾の森わくわくビレッジの館長に就任することになりました古市健でございます。私は父が東京YMCAの元職員であったというご縁もあり、大学を卒業後すぐにYMサービス株式会社就職いたしました。すぐに高尾の森わくわくビレッジに配属され、開業以来、高尾の森わくわくビレッジ一筋で仕事をしてまいりました。さまざまな業務を担当してきたなかで、高尾の森わくわくビレッジについて深く理解してきたつもりです。しかしながら、私は歴代の館長と比較してはなはだ未熟者であります。今回わくわくビレッジの館長という大役を仰せつかりましたが、共に働く仲間たちの力を借りて、今まで以上に安定的な施設運営を行なっていく所存でございます。また、この度、新たに八王子ワイズメンズクラブのお仲間に加えていただくことになりました。歴代の館長に引き続き、皆様方のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

13年目を迎える当館は、おかげさまで今年度も昨年度同等の利用者数が見込まれる状況にあります。具体的には3月現在で2017年度予約者数が既に30,000名を超えており、年度の中で増減を繰り返しながら、最終的には35,000名程度の利用者数となる可能性が充分にあると言える状況です。当館は新規のお客さまも多くいらっしゃいますが、半数以上、7割弱がリピーターのお客さまにご利用いただいております。引き続き、日々のお客さまを大切に思いながら、また繰り返しご利用いただけるよう、職員一丸となってお客さまと向き合っていきたいと考えております。

新年度より私が館長になるにあたり、副館長も私と共に大学卒業後から高尾の森わくわくビレッジ一筋で勤め上げてきた同年代のものが副館長に、また、私よりも更に若いスタッフが事務局長となります。歴代の体制から考えれば随分と若返りが図られました。若い力で今まで以上に高尾の森わくわくビレッジを輝かせるべく使命に燃えておりますが、若い故に至らない部分があるかとも存じます。今後とも皆様方からご指導を賜りますようお願い申し上げます。

中大・学Y便り

4年 井上 なるみ

本日、3月25日、大学の卒業式をむかえました。皆様にこのブリテンが届くころには私も社会人として働き始めていることでしょう。

ワイズ係として八王子クラブの皆様にお世話になったのは私が2年生のときでした。毎年3月に行われるチャリティーコンサートや、5月の新入生歓迎BBQ、10月例会中大ナイトなど、クラブの皆様とご一緒した活動はたくさんあります。

とくにチャリティーコンサートは毎年中大生もお手伝いとして参加させて頂き、私も4年連続参加させて頂きました。コンサートにお越しいただくお客様の中には、ありがたいことに私たち“中央大学YMCA ひつじぐも”に興味を持ってくださり、頑張ってくださいねと声をかけて下さる方もいます。また、他の地区のクラブの方々からも、八王子クラブと中大学Yの繋がりに関してはお褒めの言葉を頂くことがとても多いです。

中央大学YMCAには100年という歴史の中で積み上げた伝統や人の縁・繋がりががあります。八王子クラブとの繋がりもそのひとつです。私が在籍した4年間はその中のほんの一部ですが、ひつじぐもの一員として過ごせたこと、そしてワイズ係としてワイズの皆様と多くの活動でご一緒させて頂けたことをとても誇りに思います。

ひつじぐもは私にとって本当に大切な居場所でした。素敵な先輩方に恵まれ、大好きな同期や後輩たちにも出会えました。活動では自分の未熟さを実感することもありましたが、今まで知らなかった世界に飛び込み、視野が大きく広がりました。私の大好きなひつじぐもは、これからも頼もしい後輩たちによって飛躍し続けることでしょう。彼らの活動がより良いものになるように今後とも温かく見守って頂ければ幸いです。何卒よろしくお願ひいたします。

最後になりますが、今までお世話になった全ての方々へ感謝申し上げます。とても楽しく幸せな4年間でした。本当にありがとうございました。

西東京センター便り

〈西東京YMCA便り〉 4月

所長 中里 敦

国立駅から真っすぐに延びるさくら通りの桜が美しくなってきました。見ているだけで心が和みます。神様からのわずかな贈り物をいただいているようです。そして、心も新たに新年度を迎えることができます。

『わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。』（コリントの信徒への手紙2第4章18節）この聖句は西東京センターの年間聖句です。

人は第一印象が大切と言われ、外見で判断したり、自身も外見にとらわれてしまうことが多くあります。そんな時にこの聖句を思い出すようにしています。障がいや健常ではなく、一人ひとりの個性を大切に、可能性を見出せる年にしていきたいと願います。

また、先日八王子ワイズの皆さんと一緒に「3.11 希望の凧揚げ」を初めて行いました。出来ることは少なくなり、思い出すことも少なくなっている中、忘れることなく震災にあった方々の思いに馳せることは必要だと感じます。大きく広がる空に向かって凧を揚げることは、希望や未来に向かって歩める気持ちになれば、どこかでつながっていると感じました。見えないものに目を注ぐ一つだと感じながら凧を揚げることができました。そして、この思いは、東日本だけでなく1年を迎える熊本、その他多くの震災にあった方々に思いを馳せることにもつながっていくように感じます。

西東京センターは他部署へ異動する者はなく、新たに1名スタッフを迎え入れることとなります。大学を卒業したての「押山愛紀子」さんです。今後お会いする機会もあるかと思いますが、なにとぞよろしくお願ひ申し上げます。人が増え、ますます賑やかになる西東京センターですが、この一年もワイズの皆様と共に地域にあるセンターとしての役割が果たせるようスタッフ一同歩んでまいります。引き続きお支えいただけますようお願い申し上げます。

(お 話)。

3月14日、朝日新聞を無造作にめくっていたら、「バベルの塔」展というタイトルに目が留まった。何かと記事を読んだところ、ネーデルランド出身の画家ヒエロニムス・ボスの没後500年に当たって、彼の絵を2点借用展示しているということのようだった。記載されている絵は別の絵で解説もその絵についてだから、ヒエロニムス・ボス展とすべきではないのかなと思ったが、きっともう一点が「バベルの塔」なのだろう。

人間の傲慢な思いを打ち砕かれた主の伝説だが、多くの画家が挑戦している画題である。現代にもそのまま通用する話題だと思う。この物語のような過ちを犯さないよう、謙虚でありたいものだ。

仲田 達男

報 告

3月例会報告

1. 日時： 3月25日(土) 18:00-20:00
2. 場所： 北野事務所小会議室
3. 出席者(敬称略)：
小口、長谷川、山本、中塚、茂木、久保田 6名
(報告及び議題)

1. チャリティコンサート関係

・茂木委員長—ジャズファンが多く、好評だった。予算も大幅に節減したこと、演奏家が5人で150,000円を受けてくれたのが良かった。

・長谷川会計—収支計画書に基づいて説明。

チャリコン：収入430358円：チケット売り上げ299枚、当日券26名 計325枚 325,000円、
募金：街頭募金 26,121円、会場募金66,237円 計92,358円、寄附13,000円。支出208,163円 差額 222,195円のうち、各110,000円をJCBL-年会費10,000円+寄付金100,000円と東日本大震災支援金として110,000円、振り込むことで合意。

・打ち上げの会計は32名で演奏者2名接待、ひつじぐも3名1500円、メンバー・ゲスト他27名各3,500円 ビジター・ゲストが予想以上参加され、クラブ負担金は13,800円で済む。

・久保田—アンケート結果について説明。

・来年第20回チャリティコンサート日程は3月10日(土)で、今年と同じ、ジャズバンドにお願いする予定。(先方の了解次第)写真とアンケート結果を演奏家の上田さんに送付する時に一緒にお願いする。

2. 次期クラブ役員

小口次期会長より、次期クラブ役員が提示された。役員案は4月例会に公示する。全員ご了承方お願いします。

3. 花輪宗命さんの入会について

入会式は6月10日(土)の6月第1例会で実施する。入会は7月から。花輪さんには連絡済み。

事前(出来れば4月中)に入会金6,000円をお願いする。(東日本区へ送金)

4. 4月以降のスケジュール

4月8日(土)4月第1例会 卓話：「Dr.肥沼の生涯」卓話者 塚本回子さん(並木さんがお願いしたが、久保田メン・メネットの永年の友人)

4月15日(土)3クラブ(甲府、甲府21、八王子)合同メネット会 甲府の担当

4月22日(土)4月第2例会 浅羽俊一郎あずさ部長第2回公式訪問

5月13日(土)あずさ部第3回評議会 11:00-12:30 会場：東京YMCA 山手コミュニティセンター

東京たんぽぽクラブ15周年記念例会 13:30-16:00 会費5,000円 祝金10,000円持参。

申し込みは、4月15日(土)までに中塚会長に。

5月20日(土)~21日(日)大阪セントラルクラブとのDBC合同例会(古屋DBC担当より連絡あり。)名古屋市内を予定。例会は名古屋YMCAを予定。大阪セントラルクラブは3月29日詳細を詰めて連絡。

当クラブよりも出来るだけ多くのメンバーの参加をお願いします。

5月28日(日)ひつじぐも新入部員歓迎行事(草刈り、BBQ昼食会、ゲーム)5月第2例会を兼ねる。

場所：高尾わくわくビレッジ 集合：9:30 わくわくビレッジフロント前。その後着替え。ひつじぐも須郷委員長と人数その他打ち合わせ)会費。メンバー1,700円、ひつじぐも600円。中大ひつじぐも新入部員を歓迎しましょう。

＜西東京センター 主な行事予定＞ 4月

◆11日(火)「ボイストレーニング」

@西東京センター 14時~15時

毎月(8月を除く)第2火曜日に行っています。

呼吸・発声・響き・発音の練習をし、ハリのある声やスムーズな滑舌を身につけていきます。

定員：各回30名 参加費：700円/1回

◆29日(土・昭和の日)ペタペタの会

八王子ウォーク 10時30分~16時

羽村から拝島までの羽村堰、石島酒造などを巡ります。の陽気を感じながら、ペタペタとおしゃべりしながら歩

参加費：無料(ただし、交通費、飲食代等は各自負担)

*BF2017年3月報告

切手：国内	0g		
	海外	0g	累計 175g
プルタブ	0kg		累計 0kg

* 老人デイサービスセンター鍵水*

【報告】3月20日(木)ペーパーフラワー14:00~15:00

参加者：赤羽、石井、色川、下重、山口、山中、茂木

【予定】ペーパーフラワー

4月20日(木) 14:00~15:00

4月の誕生祝い

久保田貞視	4月8日
松本 淑子	4月15日
橋本 秀昌	4月18日
仲田 節子	4月24日